時事新報

明治十八年十二月廿一日月曜日
舊乙酉十一月十六日（庚戌）
日出午前七時零七分　入午後四時四十九分
月出午後四時三十二分　入午前五時五十分
滿潮午前四時三十五分　午後五時零分
（西曆一千八百八十五年）

時事新報定價

一枚金三錢○一箇月前金六十五錢○三箇月前金一圓八十錢○六箇月前金三圓四十錢○一箇年前金六圓五十錢○郵便税一箇月金廿六錢一箇年金三圓十二錢○左ニ掲クル各地ニ於テハ郵送無料ニテ配達致候

東京　横濱　横須賀　從神奈川至小田原驛　函根七湯　大阪
京都　大津　神戸　尾ノ道　福山　笠岡　岡山　廣島
和歌山　德島　高知　下ノ關　名古屋　岐阜　岡崎　豐橋
四日市　津　松坂　山田　仙臺　福島　二本松　石ノ卷
函館　青森　弘前　宇都宮　高崎　八王子　千住　草加
越谷　粕壁　杉戸　幸手　久喜　關宿　千葉　登戸
[illegible]

[illegible]地近傍[illegible]便宜ノ個所ハ同シク郵便税不申受候

時事新報廣告料（前金）一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上卅日迄	卅一日以上
一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘	六錢四厘
十一行至三十行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九五	五錢六厘
三十一行至五十行	八錢	六錢五厘	五錢八厘五	五錢五厘	五錢二厘
五十一行以上	七錢	六錢	五錢四厘	五錢一厘	四錢八厘

時事新報

生糸商會所を設くべし

日本國內年々產出の米の高は凡そ三千萬石と云へり一石の米價を五圓とするも一年の總額一億五千萬圓なり一品にて一年一億五千萬圓づヽを產出するものは日本國內米を除くの外他に一品もあらざれば日本米の日本人に重寶せらるヽも蓋し亦其理由なきに非ざるなり左ればにや東京、大坂、京都、名古屋等の大都會は申すに及ばず兵庫、大津、金澤、高岡、新潟、野蒜、桑名、德島、岡山、松山、下ノ關、博多等少しく重立ちたる地方には皆米商會所を設けて日々現場の取引を爲すのみならず定期賣買と稱して二箇月三箇月後に受渡しすべき品物の延賣り延買を爲し隨て米の收穫の多少需用の增減及び運輸の便否等を察して日々刻々價格を高低し一年三百六十五日一日も油斷することなく其注意の至れる實に驚くべきものあり日本の商工農業は當時尚ほ甚だ蒙昧の境界に在りて是れぞ文明の商業工業又は農業ありといふべき程のものなしといへども強てこれを求むれば先づ米の賣買を以て文明の商業に近きものといふて可ならん若し日本の他の商品をして商人の注意を惹くこと總て實米におなじからしむることもあらんにて日本商業の進步發達は我々の今日想像し能はざる程のものあらん

日本の商品中米に次て最も大切なる品と稱すべきものは麥にあらず茶にあらず生糸なり此生糸の性質たるや米麥の如く一旦田畑より取入れたる上は少しく其外皮を剝き乾くばかりにて直ちに人家の臺所に送り食料に供し得べきやうの荒物にもあらず又茶の如く培養したる木の葉を火に掛け人の手にてこれをこね乾上げたる上は直ちに飲料となりて半製品のまヽに終るべき品物にもあらず即ち農夫が培養したる桑の葉を蠶に食はせ蠶の吐きたる糸にて繭を作り此繭を工業者が受取りて精巧なる手と精巧なる器械とを以て細き糸に仕上げたるものにして此所までにて尚ほ半製品の性質を帶るといへども此儘にては人間の用を爲すべきにあらず更に幾多の手數を經て衣服の料と爲るに於てはこれを織るに畑より取入れたる時の桑葉に比して全く其面目を改むるのみならず其價の高きことも亦幾百倍にして實に天地の相違を爲すなり今の日本の工藝は甚だ幼稚未熟にして此生糸に更に人工を加へ綺羅錦繡と爲して世界の市場に賣出すの力なく半製品のまヽにして歐米の工藝家に賣渡し彼等の自在に奇利を網するに任して傍觀しつヽあるは申すまでもなく殘念の至りなりといへども然れども幸にして此半製品[illegible]高尚のものにして[illegible]に其價格の上より見れば[illegible]て半製[illegible]とは思はず上等の既製品なりといふも決して愧かしからざる[illegible]のものなり生糸一斤あれば銀貨五六圓に[illegible]はるべし一斤の重量中に五六圓の價を含むものとては世界の製作品中格別澤山には見當らざるべし實に生糸は日本の產物中特に重要なる性質のものといふべきなり目下日本國內生糸產出の量は何程なるべきや未だ公私ともに明細確實なる統計を得ざるを以て明言し難しといへども明治十四年內務省農務局の調査に依るに全國の桑畑は十一萬餘町步の反別あり此桑畑より得たる桑葉の量を基として仮りに養蠶の結果を察するに同年全國にて凡そ六百萬斤の生糸を製したるならんといへり養蠶は目下日本全國日進の業なり去年の麥畑も變じて今年の桑田と爲るもの全國東西南北の區別なく各地皆然らざるはなし明治十四年より四年の後に當たる今日に於ては必ず養蠶事業の進步著しきものあらんなれば生糸產出の總額は最早既に千萬斤に近きものならん兩三年來外國輸出の生糸類の總額年々五百萬斤內外なるを見ても產出高の巨大なるを知るに足るべし察するに目下一年產出の生糸の價は五千萬圓內外のものならん

然るに日本商人が當時生糸に對する所置を見るに其注意の周密ならざる感覺の鋭敏ならざる見聞の狹隘なる擧動の不活潑なる我輩として遺憾に堪へざらしむるもの甚だ多し上野信濃岩代等をはじめ生糸場と稱せらるヽ各地方には專門の生糸商人ありて生糸の賣買に從事し其取引も隨分頗敏なるが如くに聞ゆれども地方の生糸相場は皆橫濱の相場を目的として進退上下するものにして其橫濱の相場とは如何なるものぞと聞くに唯同港の賣込商人等が專ら在留外國商人等の顏色を窺ひて時々高低する賣込直段にして頗敏に外國の諸相場を參酌して時々の高低を爲す者にあらず橫濱の商人とて固より唯在留外國商人等の顏色に依賴するにはあらず米國紐育あり佛國里昂あり英國倫敦あり常に電報の往復を爲して注意の周到を期する者なきにあらずといへども此等は實に例外の場合にして一般の有樣にあらず滔々たる賣込商人社會は相場の高低を專ら外國商人の自から爲すに任するものにして恰も我運命の浮沈を他人の指圖の下に置きたるが如く如何にも不甲斐なき限りといふて可ならん橫濱の源流既に斯の如く混濁せるがゆゑに其流を汲む各地方の生糸相場の或は兒戲に類するが如き實跡あるも決して怪しむに足らざるなり依て我輩は此弊害を矯正するの第一着手として先づ日本國內に一箇所の生糸商會所を設立し此所にて現場取引は勿論二箇月三箇月の先き物の定期賣買を爲すこと彼の米商會所の例の如く爲したらんには此生糸商會所に關係の人々は成るべく內外の見聞を廣くし又速かにし平生の注意到らざる處なく坐して歐米市場の生糸の景況を知り支那佛蘭西伊太利等の養蠶の豐凶を知りこれを我國內の實況に照らして進退掛引を爲し一寸も他國人に後れを取らざるは勿論日本國內一般の蠶業者も此生糸商會所の相場を目的として安全に業を營むことを得る其便益は勝げて言ふべからざる者あらんと思はる生糸商會所先づ急に設立すべきなり

官報

○參謀本部第一局課員步兵少佐和智重任は去る十五日[illegible]死せり

○東京學士會院會員（文部省報告）　東京府士族田中芳男同三宅秀の二名は今回東京學士會院會員に當選せり

（以上三件本年十二月十九日官報）

雜報

○緬甸戰報　左の諸報は昨日到着の米國新聞に載せたるものなり

十一月二十一日ラングーン發の報に曰く英國の遠征軍は緬甸の一都會なるマギーブを陷れたり此地はイラワッデー河の左岸にありプロームより三十五英里程川上にありて人口凡一萬人を有せり此役に英兵の擒にしたる俘虜の中に伊國の士官三名あり英軍の總督プレンダルガスト氏は目下メンボー（地名）にあり○十一月二十三日ラングーン發の報に曰く英軍は敵の抵抗に遇はずしてシンボー（地名）に達せり緬甸王は更に令を發して二萬五千の兵に戰爭の用意を爲すべき旨を命じたり○十一月二十七日ラングーン發の報に曰く英國遠征軍の總督プレンダルガスト氏よりの公報に據るに英兵は本月二十四日ハガンに於て緬甸兵と戰ひ之を破り明日は緬甸の首府なるマンダレーに攻入るべき筈なりマンダレーはイラワッデー河より僅に一英里計りなれども小舟にては三英里より近くは進み難ければ英の砲艦よりは十分なる砲擊を爲す能はざるべしマンダレー府は堅固なる煉瓦の城壁を以て四方を取圍み一方毎に一つの城門あり門の上には孰れも七層の塔ありて金碧日に映して煌々たり又右の四大塔の間に數個の小塔ありて之を番兵の居る處とす又城壁の外には環らすに幅百五十英尺計りの深き溝を以てせり英軍はマンギャンに於て緬甸兵と劇戰の後同地を陷れ此役に英兵の負傷せしもの三名なり○同日同地發の報に曰く英軍は本月二十五日ミンヤンに達し其夕マンダレーに向ひ進軍せり緬甸兵は大軍をニャンに集め二英里の間に陣を張りて激しく英の小艦隊と砲擊するに付英軍よりも破裂彈を發して之に應じ二時間程砲戰の末、敵兵は敗走して死者十三名と多くの負傷者を棄て森林中に引退き緬甸の將官も急ぎマンダレーに歸れり緬甸人は鉄砲彈藥等を他の物品の如く荷造りして外國より輸入したるものヽ如し緬甸の住民等は皆英軍の到着せるを喜ぶの色ありと云々

○十月中の輸出入　本年十二月十七日の官報に記載せる大藏省報告に係る本年十月の外國貿易表に據れば同十月中の輸出總計は金二百八十二萬三千九百十四圓四十四錢五厘、輸入總計は金二百五萬九千四百十二圓七十六錢にして輸入の輸出に超過せる高は金七十六萬四千五百一圓六十八錢五厘なり又同月中輸出の金銀は金

は三萬
百七十
三錢三
八十三
計百五
○醫學
體育
の初會
も其門
をあり
所長、神
東京大
佐藤氏
の合奏
○小樽
きば昨
圓越中
米と汽
金三十
されば
○波止
ダ發起
と企圖
助を仰
もなけ
ありた
時見合
て頗り
○椅子
玉縣南
種々發
下本所
農商務
次第
同縣下
椅子掛
たるよ
○福岡
臨劇
從來の
い特別
內に記
そるに
八圓と
怡土、
○
（同上
津、
生業、
溺合併
戸長
又
二萬九千
○協出
○通常
次會を
廢止し